

マーケット概況（2022年9月）

9月の債券相場は、世界的な金融引き締め観測を背景に売り先行で始まり、10年367回債の利回りは前月末比1.0bp上昇の0.230%で取引を開始した。外国為替市場で1ドル=144円台まで円安が加速したため軟調地合いとなるなか、13日に公表された米国8月CPIが市場予想を上回ると日米ともに株式・債券市場は大幅安となり、10年367回債の利回りは6月17日以来となる0.250%に上昇した。超長期債は日銀が為替介入を視野にレートチェックを実施したとの報道を受けて14日に月間高値を付けるなど買われる場面もあったが、15日に行われた20年債入札がテール84銭と1987年12月以来の大きさとならな結果となったため売り直された。日銀金融政策決定会合前に10年債のカレント3銘柄を対象とする指値オペの落札額は膨らんだが、政策の現状維持が決定されると10年367回債の利回りは0.225%に低下した。一方、主要国の中央銀行による利上げが相次いだほか、英国トラス新政権の景気刺激策に対する警戒感から英国債金利が急騰すると、20年181回債の利回りが1.060%に上昇するなど、20・30・40年債の利回りは軒並み2015年以來の安値を更新しベアスティーブ化が進んだ。その後はBOEが英国債の買い入れを表明したことや日経平均株価が26,000円を割り込んだため、債券相場は全年限で下げ幅を縮めて今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は投資家需要に支えられ、月前半から半ばの入札は-0.10%~-0.11%台で推移した。セカンダリー市場では-0.11%台後半~-0.12%台での取引となった。21日の3MTDB1110回債入札から償還日が年末越えとなり、投資家需要の強さから最高落札利回りは-0.17%台へ大幅低下となった。その後は-0.2%台まで低下し、最終的に月末入札の3MTDB1111回債は-0.275%で取引を終えた。6M・1Yは投資家の担保需要が根強く入札は順調に通過した。6MTDB1106回債入札は発行減額が影響し最高落札利回りは-0.15%台着地と堅調で、セカンダリー市場では需給環境が良好で-0.235%まで低下した。-0.13%台で着地した1YTDB1108回債は-0.14%台後半で推移していたが、月末にかけては投資家需要が限定的で-0.140%で取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債は前回(3月債)比+6.0bpワイド化し国債カーブ+10.0bpとなり、供給量が限定的なことから無難に消化された。10年地方債は前月比+1.0bpワイド化し国債カーブ+13.0bp、5年地方債は前月比同水準の同+9.0bpで条件決定した。10年債は実勢水準と比較しタイトな条件のため予約の入りはやや遅く、消化に時間を要するものもあった。既発債は、超長期ゾーンの金利水準がボラタイルな中、投資家の慎重な運用姿勢が継続しスプレッドのタイト化には至らなかった。社債は、電力各社から起債されたものの大型起債が限定的だったことから、発行額は前年同月比7,748億円減少し1兆3,192億円となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#367	0.230(1日)	0.225(22日)	0.250(14日)	0.240(30日)
#366	0.175(2日)	0.165(5日)	0.195(9日)	0.190(29日)
#357	0.180(1日)	0.160(5日)	0.240(24日)	0.215(30日)
#153(5Y)	0.015(1日)	0.010(5日)	0.090(27日)	0.065(30日)
#181(20Y)	0.875(1日)	0.845(14日)	1.060(28日)	1.000(30日)
#1100-#1106 TDB(6M)	-0.165(8日)	-0.230(9日)	-0.165(8日)	-0.230(9日)
#1104-#1111 TDB(3M)	-0.113(2日)	-0.275(30日)	-0.113(2日)	-0.275(30日)